

授業の成果と課題

1 授業の実際

(1) 板書



(2) 生徒の学びの実際

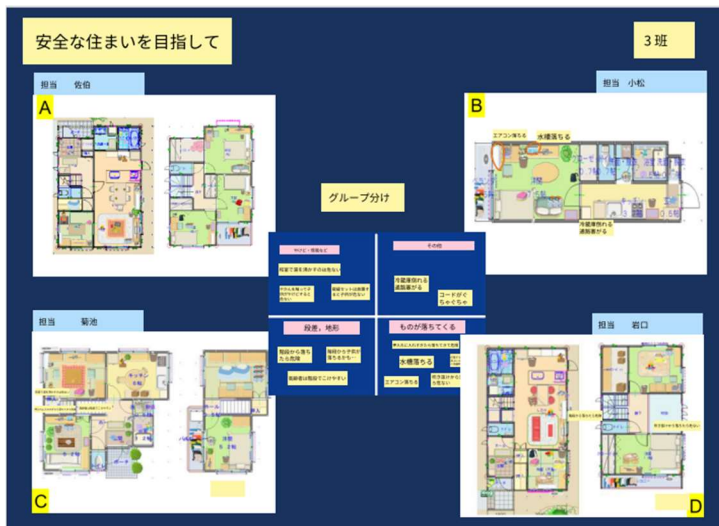


図1 班活動の共有ノート(ロイロノート)

四つの異なる家族とその住まいから、住まいの問題を見付け、分類をさせた。図1はその班活動の記録、図2は分類部分の抜粋である。問題を見付けて分類していく作業は、生徒が戸惑うことが多く、時間がかかった。

しかし、自分たちでそれぞれの家における安全性を考慮し、分類していく方法は、問題の根本原因を考えたり、整理したりすることにつながり、生徒の安全意識を高めるための有効な手段であったと思う。しかし、その効果を最大化するためには、更に具体的な実践や調査が必要である。今後の授業で、実践や調査を重ねて、問題の原因や根拠に気付かせたり、具体的な方法などを比較したりすることにより、より現実的で効果の高い解決策を見付けられるようにしていきたい。

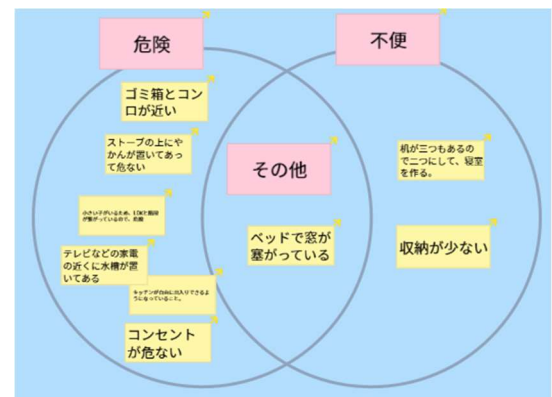


図2 共有ノート 分類の例

2 成果(○)と課題(●)

モデル家族の住まいの問題解決に向けて、自分事として課題を解決させる活動は、生徒がエージェンシーを発揮したり、メタ認知を促したりするのに有効であったか。

○子どもたちにとって、住まいというテーマが意識しにくいことを前提とし、モデル家族とその家族を設定することで、生徒が主体的に参加し、自らの行動や意識を変えることができるような学びの場面が作ることができた。

○グループでの話し合いを通してそれぞれの理解が深まり、発表や議論から当初は見落としていた側面まで考慮されるようになっていった。生徒たちが理解や意識の不足を補い合い、次の問題解決に繋げる姿勢が見られた。

●PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)の手法を用いることで、目的意識やゴール意識がより明確になる。今回は課題を設定する場面のワークシートのみであったが、学習活動(プロジェクト)全体のテンプレートの提示をすることで、生徒がより見通しを持って学ぶことができ、自己決定能力や主体性を発揮できるようになると思われる。

●教師が示したジグソー班だけでなく、他の班の同じモデル家族について考えている生徒と話し合えるようにしたり、資料を掲示して自由に見に行かせたりするなど、話し合いに自由度を持たせることで、より主体的で深い学びになっていくのではないかと思われる。